

高等学校グランドデザイン会議第3回検討会議概要

日時：平成18年12月20日（水）

13：30～16：40

場所：弘前パークホテル4階フィオーレ

<出席者>

蛇口議長 友田副議長 相川委員 飯田委員 大久保委員 加福委員 櫻田委員
佐々木（昭）委員 佐藤委員 高山委員 豊川委員 野呂委員 藤井委員 前田委員

開会

司会

それでは定刻になりましたので、ただ今から高等学校グランドデザイン会議第3回検討会議を開催いたします。それでは蛇口議長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

蛇口議長

それでは、本日はよろしくお願いいたします。次回は3月下旬の開催予定ですが、もう中間報告のまとめという段階に入ってきています。1月の各専門委員会を経て、3月の検討会議で中間報告をまとめるという事になる訳ですので、その直前の検討会議として今日は大変重要だと思います。今回の検討会議では、指針ではありませんが、合意事項のような事をまとめられるのではないかと考えています。これから報告をいただきますが、委員長、地区部会長がまとめた資料を見た所では、大分形が出来たのではという感じを受けています。ただし、迷いと言いますか、自然と悩みが表れているような内容ですので、それを今日は率直に出していただいて、ある程度ここで方向付けができるものはい切って決めて、1月あるいは3月につなげて行きたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速始めさせていただきます。今日の審議内容は、このレジュメに書いてあるように、各専門委員会の検討内容及び各地区部会の意見に対して総括するという事です。総括するというと大変な言葉ですが、もう少しで意見が固まりそうなものについては、ある程度の方向性を出そうという意味だと思っています。そういう作業である事を踏まえて、1月の各専門委員会で今後は是非こういう方向で検討をお願いしますという内容について確認したいと考えています。それが今日のメインテーマです。

それでは次第に従いまして、資料説明から進めたいと思いますがよろしいですか。大変良い資料だと思います。これからは、本当に具体的にどこの学校とどこの学校がどうなっていくというような展望を頭の中に描く必要があり、そのためにも非常に良い資料

が配付されているようですので、その辺を中心に説明をお願いします。

資料説明

【事務局が、配付資料に基づき説明】

蛇口議長

学科新設に関する資料は皆さんに配っていないのですか。やはり委員に意見をお聞きして、我々が何か言わなくてはいけないのであれば、配った方が問題点がはっきりしていいのではないのでしょうか。読み上げて終わりでは、これだけ資料が多くては大変なので、後で配ってください。

議事録確認

蛇口議長

少し前後しますが、議事録の確認とは前回の確認という事ですね。よろしく申し上げます。

【事務局が、配付資料に基づき説明】

蛇口議長

これは皆さんにメールで配っていますよね。これは、何かあれば後で事務局にという事でよろしいですね。

検討すべき内容も色々多いのですが、非常に資料が多くなっていますね。続きまして次第の4に行きまして、各専門委員長と各地区部会長からこれまでの検討内容の説明や意見を伺うという事なのですが、これが1人5分というのは少し短いので、7～8分くらいでやりたいと思いますがよろしいですね。資料もこれだけ多いので、この資料1と資料2だけを中心にして、皆さんに検討していただくという事にしたいと思います。先程申し上げたとおり、大分固まってきたと言いますか、姿が見えてきたと思うのですが、実際には委員の皆さんから見て色々今後の問題点が提起されて、その点は両論表記されているなど、大変な苦勞の跡も見られる訳です。特にその辺について、どのようにまとめていったらいいのかという問題を中心に進めたいと思います。それでは、第1専門委員会の豊川委員長から資料1についてお願いします。

豊川委員（第1専門委員会委員長）

それでは資料1についてですが、前置きは省略して先に進みたいと思います。第1専門委員会は第1回が6月、第2回が8月に開かれ、11月の第3回には第1～2回の検

討内容を踏まえてかなり突っ込んで話し合われ、具体化に向けて検討したという状況です。それを2枚の資料にまとめましたので、この資料を中心に説明したいと思います。進捗状況という事でまだ決定ではありませんが、ここで皆さんの意見等を聞いて更に次回につなげたいと思っています。

まず最初に県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方という事ですが、1学年あたりの適正な学級数については、まず市部と町村部に分けて高校の望ましい学級数について書いてあります。上の説明の文章は省略して、市部は4～8学級、町村部は3～4学級が望ましいという事です。最低限2学級も考えられるという事で、2学級についてまだ含みがあると考えています。分校もありますし、これについては色々皆さんから意見がありましたが、やむをえない場合には特色を持たせて存続させてはどうかという意見がありました。いずれにしろ、こういう小規模校というのはいずれ立ち行かなくなるだろうから、明確な方針を出した方がいいのではないかという意見もありました。

次に普通高校、職業高校、総合学科の高校のそれぞれの望ましい学級数という事です。第1専門委員会の方で概ね統一された学級数がここに書いてあります。いわゆる進学中心の普通科については6～8学級です。6学級が非常に良いとか、大きい方が良いので8学級が良いとか、色々な意見がありましたが、ここでは6～8学級としています。それ以外の普通科は4～6学級、総合学科は4学級以上、職業学科は4～8学級だろうという意見です。町村部ではそれぞれ少しずつ少なくなり、普通科は3～4学級で最低2学級と書いてありますが、これについてもやむをえない場合にはとしています。しかし、2学級以下ではやはり無理だろうという意見がありました。総合学科は4学級以上が必要だろうという意見ですが、総合学科としての使命を担うのであればやはり3学級以下では駄目だという事です。職業学科は4学級以上となっています。

以上が進捗状況の報告ですが、これらの学級数は高校長協会の提言に非常に近いものになってます。特にそれを参考にした訳ではないのですが、結果的に妥当な所なのだろうと思います。いわゆる高校教育の在り方等については議事録を見ていただいて、ここでは省略いたします。

は普通科と職業学科と総合学科の在り方ですが、まずそれらの目指す役割が大切だとの考えを最初に検討してあります。これは次回のために考え方を整理した段階と言えますが、生徒は希望を考えてそれぞれの役割を達成していると考えられています。

次のページですが、普通科、職業学科、総合学科の地区毎の募集割合という事です。募集割合につきましては、生徒と保護者が選ぶ高校は全県一区であると見られますので、全県的視野に立った再編の検討が必要であろうという事です。結果的に志願状況等から募集割合は自然に決まるだろうから、学科等の見直しを進める中で自然に学級減を行うのが理想的だという意見です。しかし、保護者と生徒から圧倒的に支持される普通高校を増やす等、何らかの方向性を打ち出しても良いのではないかとこの意見もあります。これはやはり、社会のニーズに柔軟に対応する事を意識しています。普通科を漸増してはどうかとまとめてありますが、その結果職業学科は自然に減って行くのではないかと

う見方でもあります。

適正な学校規模を実現するための方策という事ですが、これはまだこれからの課題ですが、全県的視野での統廃合の必要性と可能性、そして統廃合以外の選択肢という事です。これまでのように、非常に活気のある市部の大規模校の学級数を削って、郡部の学校を残すという方法には問題がある事、また、統廃合を議論した場合に、市部に厚く郡部を切り捨てる方向に流れがちですが、教育格差を起こさせないためにも、郡部をどうするか十分配慮する必要があります。勿論、市部の学校も見直す事になってはいますが、以上の事を前提に考えられています。高校教育が特定の市町村のための教育ではない事や、先生達が生徒達をきちんと教育できる条件作りをする事を念頭に置くと、今の学校数を残したままで学級数を減らして行く方法では、正常な高校教育ができなくなる事から、統廃合以外の選択肢がないのはやむをえないとの考えです。

次に統廃合の進め方ですが、この については下にも書いてあるように、①⑤の検討課題を次回にも十分検討を進める予定です。統廃合による新しいタイプの高校の可能性を考えるという事は、学級数が増える事によって教員配置が増えたり生徒の活動費が増えるというメリットが考えられますが、建設費等のお金がかかるというデメリットもあります。本当はきちんと新しい校舎等を作ればいいのですが、県の事情もあってという事です。それから、学校にはそれぞれの伝統がある、生徒の質が違うという事など、単純には解決できない問題があります。この辺は次回の検討課題です。

次回の予定は1月15日になってますが、このような事について検討する予定です。

は更に話を詰めて、 については、まだほとんど検討していませんのでこれから協議するという事になります。

蛇口議長

大変良い方向性と言いますか、思い切った方向性を引き出していただいたように思っています。1つは、やはり統廃合以外の選択肢はないのだという事です。これはそれぞれの地区部会からの声もそうだったので、このように意志統一をしていただいたという事だと思います。それからこの場合には、市部から郡部への流入とか郡部から市部への流入とかではなくて、市部は市部で、郡部は郡部でというように、ある程度は客観的な物差しを持って、両方とも自然減に対応したような形で進めば良いのではないかという方向性です。ですから、今までの流れとは違う事がここでは検討されていますので、非常にその辺はクリアになったという感じがしています。

しかし、少し問題も残っています。それについては後で検討したいと思いますが、例えば、市部の定員についてはどういう議論がされましたかという時に、市部は4学級から8学級と言うのでは、やはり範囲が広過ぎだと思いますので、少なくとも青森、弘前、八戸の3市については、もう少し踏み込んで検討してもいいのではないかなという印象があります。その辺については、後程皆さんの意見をいただいて、一緒に議論していただければと思います。その他にもいくつか問題はありますが、次に移りたいと思います。

それでは、第2専門委員会の高山委員長からお願いします。

高山委員（第2専門委員会委員長）

それでは、第2専門委員会からの報告を行いたいと思います。資料2として、第2専門委員会の検討の進捗状況の概要をまとめてありますので、それに基づいて話したいと思います。私達第2専門委員会につきましては、社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コースの在り方という非常に重いテーマを与えられていますので、第2専門委員会はこれまで3回開かれて先月もやっているのですが、最初の部分の社会の変化とはどういう事なのかという部分で、少し堂々巡りの状態になっていました。それ以降は、進路志望に対応する学科・コース等の在り方という事について、社会の変化を踏まえて話し合いをしたのですが、確固としたベースになる社会の姿が見えないまま検討を進めたので少し不足な部分もあるかとは思いますが、今まで実施してきた学科・コース及び系列について検証してみました。学校の先生方や民間の皆さんから様々な意見をいただいて検証し、この部分については大体意見が固まっていますので、資料について話したいと思います。

まず最初に、学科・コース等の今後の方向性についてです。各学科・コース及び系列の検証という事で、普通科及び普通科に併設される専門学科、職業学科、総合学科という3つに分けて、これまでの在り方はどうだったのかについて話し合いをしてきました。まず、普通科と普通科に併設されている専門学科について、我々の意見としてはここに書いてあるように、進学率が向上し普通高校の大学進学率が非常に高まっているという中で、その一方、生徒の考え方という部分では、進路意識や職業観が非常に希薄になっているという事です。色々な社会との関わりという部分では、学校の中もそうなのかもしれません、挨拶や協調性といった人間性・社会性に係る適性が非常に希薄なのではないかという意見があり、以前の中学校が今の高校になっているという言い方をした委員もいたように、基本的な人としてのマナーとかルールという部分が、どこか抜けているのではないかという意見が色々な場面に出てきました。その中で、普通科に併設されている専門学科については既に募集定員を満たしていない所も多いという事情もありますが、先程申し上げた進路意識の部分や、あるいは特化した学科を選びきれないという部分もあると思いますので、これからもこのまま進めて行く事には課題があるという状況が見えてきたのではないかとまとめています。

それから、次の職業学科についてですが、これまでは非常に専門化、細分化という方向で動いてきていますが、現実の社会における産業構造の変化に伴う企業の変化や人材に対するニーズの変化という部分でミスマッチがあるのではないのでしょうか。また、生徒や保護者が、学習内容や将来の進路について十分理解できていない部分もあるのではないのでしょうか。ですから、少し細分化し過ぎなのも問題があるのではないかという意見です。企業側の部分を見ても、やはり専門性もそうですが、先程申し上げたように人間性や社会性の部分も強く求めているという事もあるだろう、というようにまとめてい

ます。更に、やはり職業学科においても大学進学率が高まっていますので、その部分の指導方法も重要だろうという事で意見を集約してあります。

それから、次の総合学科についてですが、ここでは「産業社会と人間」という科目やインターンシップの経験という部分で社会と実際に接触する事により社会を疑似体験する事が可能ですので、非常に第2専門委員会では評価が高かったです。ただし、様々なデメリットもあり、施設整備や教員数の確保という部分がこれからの課題となるのではないか、というようにまとめています。

次に、これまで設置した学科・コースの今後の在り方について、少しお話をさせていただきます。高校全体という事では、現在ある学科の統合や再編により、教育課程を編成し直し、入学後も多様な進路志望に柔軟に対応できるようにするのが望ましい。また、職業観、勤労観を育成するキャリア教育の充実を図る必要もあるでしょう、というように全体の在り方をまとめています。

次の普通科及び普通科に併設される専門学科については、先程申し上げたように、定員割れしている学科があるという事は、中学生や保護者のニーズにそぐわなくなってきた部分もあるという事だと思いますので、少しきつめの言い方ですが、廃止も含めて見直しをする必要があるのではないのでしょうか、という意見としてまとめています。ただし、全てについてという訳ではありませんが、やはり特色ある学科についてはもう少し見直しをして、メリハリのある検討をして行きたいと思っています。

2ページを開いて、専門高校における職業学科という所ですが、ここでは専門性という部分よりは、やはり基礎基本を重視するべきではないだろうかという意見がベースになっています。やはり、高校教育の中では非常に高度な部分まではなかなか学ぶ事ができないだろうから、ベーシックと言いますか、応用のできる基礎基本という部分を1つの観点として、統合や再編をする必要があるのではないのでしょうか、という事です。

総合学科については、次回以降に検討する課題とする予定です。

普通科における全日制単位制の在り方という事につきましては、まずは第2次実施計画で設置された学校の実績を検証し、その評価を踏まえて今後の方向性を検討するという事で、若干先送りのな中身になっています。

それから、新しい学科等の設置の必要性という事ですが、先程も申し上げたように、基礎基本を非常に重視していますので、新しい学科の設置は行わず既存の学科の見直しを行い、目新しい部分に目を移すばかりではなく、今あるものをいかに利活用するかという方向性が必要ではないのでしょうか。個人の感想も若干入っていますが、そういう感じでした。

それから、統廃合による新しいタイプの高校の可能性についてですが、全国では色々な事例が出てきていますので、例えば生産や経営の分野などの色々な部分をまとめて1つにして、各分野を学べるというような新しいタイプの高校には非常に期待できるのではないのでしょうか、という事です。ただし、機能面や学習内容の面など、色々な面で新校舎での対応が理想的だとは思いますが、予算の問題もありますのでもう少し課題が

あるのではないのでしょうか、という事です。

専門学科の募集方法についてですが、やはり括り募集が非常に効果的な手法なのではないかという意見がありました。将来についてなかなか進路をはっきり決められない中学生、あるいは高校1年生について、ゆっくり指導して専門分野を決めさせるという事は、生徒達にとっても非常に願う所ではないか、とまとめています。

後は、県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方については、次回以降に協議予定となっています。

蛇口議長

ありがとうございました。ここでも大変明確な方向性が、大きな意味では出ているような気がしました。特に基礎基本を重視するという観点と言いますか、社会性や一般的な常識を持った生徒達を育てようという意見がありました。これは専門高校に限らずそのようにしたいという事で、皆さんから意見があった観点ですね。

しかし、新しい学科等は基本的には設置しないとと言いながら、地域性に応じた新しい学科の設置や進学対応の学科の設置があってもいいのでは、というように、やや玉虫色な意見になっている点など、色々な問題点もあるように思います。その辺については、今日の会議の論点になるのではと思っています。

それでは続きまして、東青・下北地区部会長からお願いします。

佐々木（昭）委員（東青・下北地区部会長）

地区部会は、これまで2回開催しておりますが、第1回につきましては、資料がない状況と顔合わせ程度という事でした。そこで出された意見については、手元に配布してあります資料3の最初のページに東青・下北地区部会の第1回目の意見が書いてあります。これは資料がない状態で、個人個人の意見をという事で出されたものですので、全体的には地区部会の委員の使命と言いますか、意思と言いますか、全体的には郡部を救うという事や、郡部にこそ特色ある学科を、という声が主力だったような感じがします。その中でも下から2つ目にあるように、やはり下北地区において原子力や海洋科学系に関するような教育ができないかという意見が、第1回目から出ています。第2回については、ただ今説明をいただいた専門委員会の検討状況の方向性の資料を基にして地区の意見を伺ったのですが、やはり、委員の最大の関心は次の検討課題でもある地区毎の配置という具体的な所に関心が強いようです。今のお話にあったような在り方については各自各様でしたが、全体的には専門委員会の考え方と同じだという結果です。そういう中で出された意見についていくつかお話したいと思います。地区部会の資料として検討したものは資料4です。資料1や資料2のようにコンパクトにまとめられたものを基にするとまた違った感じになるかと思いますが、沢山の意見が書かれた横長の資料の方を基に意見を述べますので、的外れな所があるかもしれません。その中で、検討会議と専門委員会にお伝えしますと言ってきた事として、まず第1専門委員会の適正な学校規模

・配置の、市部と町村部の部分で、特に市部について普通科（進学校）と書いてありますが、進学校とそうでない学校を分ける理由は何でしょう、という意見が出ていました。進学を目的とすると書いてはあるのですが、そうでない学校とどういう区分けをするのだという意見です。それから配付された資料4では、市部の普通科（進学校）は6～7学級という数字になっていますが、コンパクトになってる資料1では6～8学級となっています。実は一部の委員から、進学校について6～7学級となっているが、カリキュラムを組む上で奇数は旨く行かないので偶数が望ましいという意見があり、今の資料1にある6～8学級であれば問題はないというが感じます。それから分校の所で、どうしてもやむをえない学校のみ特色を持たせて存続させると記載されている部分についてですが、これについてはやはり地区の方は賛同するという意見が多いような気がします。ただその際に、そういう形でもどうしても無理だというような状況になった時には、交通事情などを考慮し、通学に配慮した支援策を、県としては無理だと言うのであれば、県がリーダーシップを取って、各市町村や、あるいは支援団体等に働きかける事が必要ではないかという意見がありました。それから第1専門委員会の方ですが、普通科、職業学科、総合学科の在り方の所で、保護者と生徒から圧倒的に支持される普通高校を増やすというような事に関しては全体的にそうであるとは認められましたが、ただその中で工業高校を経験した委員から、工業高校ではものづくりなど工業センスを磨いて大学に進学する生徒もいるので、全てが普通科志向ばかりではないという声がありました。ただ、他の職業学科までトータルとしてそうも言い切れるものでありません。それから普通科、職業学科、総合学科の募集割合については、単純に割合を増やすとか減らすとかいう問題ではない、その割合はあまりこだわらべき事ではない、という意見もありました。それから適正な学校規模・配置を実現するための方策の中の、統廃合以外の選択肢というような所では、これは専門委員会と同じ意見でして、全体的に統廃合はやむなしという事です。一方では郡部を支持しようという声がありながらも、統廃合はやむをえないというのが大方の意見です。

それから第2専門委員会の方の資料につきましては、これもまた実に話をまとめにくい中身でして、普通科に併設されている専門学科の件に関しては、いただいた資料を見るとスポーツ科学科以外は機能していないという声があり、スポーツ科学科についてはもう少し長い目で様子を見る必要があります。機能していないと言われるその他の普通科に併設されている専門学科については、某高校の英語科のように努力して成功しているという学科の話もありますが、全体的には専門学科の学習に集中しなければいけない事から大学進学面ではハンデとなる危険性があるという事です。これは専門委員会の意見と一致し、併設されている学科については見直した方が良いという意見です。それから専門高校の細分化、専門化した学科を、基礎基本重視の観点から統合・再編する事が必要であるという意見については、やはり工業高校経験の委員から同じような意見が出ています。工業高校などの施設設備を図るために、既存の学科を細分化し新しい学科を設置する必要があったが、その役目はもう終えたのではないかと。元に戻すのは良い事では

ないか、という事で専門委員会の意見と同じです。それから新しい学科等の設置の必要性については、大方の委員は新しい学科の必要性は認めていませんが、ただ地域性を持った新しい学科の設置という事については、第2回目でも下北の原子力関連学科についてお話がありました。先程事務局から説明があった要望書と一緒にですが、地元就職のためという事で考えられないかという話は出ていました。最後は括り募集の所ですが、本地区部会では、専門高校の小学科の中身を考えると括り募集ができる学校とできにくい学校、同じ専門高校でもそういう学校の違いがあるのではないかという事で、この後の専門委員会の検討の推移を見守りたいという意見が出ていました。

蛇口議長

ありがとうございました。どこの地区においても、最大の関心事は我が地区はどうなるのだろうという事だと思います。続いて、西北・中南地区部会長をお願いします。

野呂委員（西北・中南地区部会長）

第1回目については、顔合せ程度という事で30分程度しか時間がありませんでした。その内容については、資料3に載っています。第2回目については、第2回目の第1専門委員会、第2専門委員会の検討状況の資料を基にして行われました。その日は意見があっちへ行ったりこっちへ行ったりしましたので、地区部会の委員の意見がまとまった意見という事ではありませんが、簡潔に報告します。まず、市部、町村部という分類が専門委員会ではありますが、これはあくまでも旧行政区という事を頭に入れての発言ですよ。これからまた市町村合併があるかもしれませんので、そうすると市部と言ってもどこまでなのかという事になってしまいますので、そのような事を念頭に置いて話し合いをしました。

蛇口議長

旧行政区の旧とは。

野呂委員長（西北・中南地区部会長）

あくまでも8市だった頃の行政区という事です。まず学級数についてですが、やはり教育水準を維持・向上するためには、最低限4学級以上は必要であろう、という事です。ただ、地域の実情を踏まえての話という事ですから、やはり最低限は4学級ですが、どうしてもという場合はそれ以下もやむをえないのかなというニュアンスであったと思います。しかし、進学という事を考えると、普通科へ進学したいという中学生が多いという事から、6学級以上は必要ではないか、という意見がありました。募集については、あくまでも現状の東青・西北・中南・上北・下北・三八の6地区を念頭に置いて、市部、町村部の学校について考えて行く必要があるのではないのでしょうか。全県一区となっはいますが、移動の問題を考えると地区以外の学校へ行くという事はそんなにはないで

しょうから、やはり地元という志望が多いという事で考える必要があるだろう、という事でした。ですから学級数についても、その中である程度考えて行くのが良いだろう、という事です。

普通科と職業学科と総合学科の在り方についてですが、普通科の希望者が非常に多いという事から、普通科を増やして行く方向が良かったらう、という事です。ただし、専門高校のニーズもあるだろうという事を考えると、学級数は少なくなるでしょうが、専門高校をなくするという事ではないでしょう。また、普通科はつぶしがきくという意見の委員もいました。普通科志向については、生徒の意識が強いと言うよりは、親の意識が強いのでは、という意見もありました。

それから、専門高校については青森県らしいと言いますか、青森県政の施策的な事も考慮して、特色のある学科を設ける方向などを今から考えてはどうか、という意見がありました。例えば、青森県ではどのような農業を目指していて、そのための勉強をするような学科を設置してはどうか、という事です。青森県はやはりリンゴですので、リンゴ科が藤崎園芸にありますか、そういう事も考えてはどうでしょうか。

それから、適正な学校規模を実現するための方策として、統廃合は少子化の影響を考えるとやむをえないのではないかと、というのが主な意見でした。

第2専門委員会については、先程もありましたが人の話を良く聞く事ができる人間や素直な人間を育てる事が今一番重要なのではないかと、という意見がありました。学科・コース等については、既設の学科・コース等について再検討し、学科の細分化にはあまり賛成できないので、基礎基本をしっかり身に付けさせるような学科が必要です。そのためには、専門高校の学科の場合は、シンプルでスタンダードな学科がいいでしょう。また、これからは基本になるのはパソコンなので、しっかりできるような人間を企業は求めている、という事でした。先程も東青・下北地区部会の意見でもありましたが、普通科の全日制単位制高校の設置に関しては、今ある学校と設置が決まっている学校の実績を見て判断するべきです。括り募集については賛成の意見が多かったです。やはり中学生や入ってすぐの段階ではまだ将来の展望もないので、1年間身近に見てから考えるという点で括り募集が良いのでは、という意見でした。現に私立高校では実施していると聞きました。

蛇口議長

上北・三八地区部会長からお願いします。

加福委員（上北・三八地区部会長）

第1回目については資料にありますので省略します。第2回目は各専門委員会の検討状況について事務局から説明をしていただいて、その後意見の交換をしました。先程来あるのですが、やはりPTA関係の方や地元から来た方が多いので、我が地域はどうなるのかという話で行ったり来たりして、自分の所はなんとか残して、という事でなかなか

か話が進まなかったりしました。報告したい事は、1学年あたりの適正な学級数についてですが、地区毎の学校配置の項目とも関係すると思うのですが、市部や町村部の高校の学級数については概ね了承されました。しかし、上北・三八地区の場合、特に八戸市内の高校を考えると中学校の卒業生と県立高校の卒業生の数が合わないのではないかと、という意見がありました。これは、私立高校の設置数が他の地域よりも八戸地区は多いからです。私立高校の場合は学校評価も高く志望者数も多いという事から、地域の保護者達あるいはよその人達も県立高校と同じように考えているのではないのでしょうか。だから、外の地区と全く同じ割合でやられても困る、という話が出ました。色々話が出て進まなくて困ったのですが、もう1回専門委員会で考えてもらわなくてはいけないな、となりました。それから、町村部の普通科は3～4学級だが最低2学級については絶対賛成だ、という意見がありました。特に上北地区はあまり交通事情が良くないので、なんとか離れた場所でも残して欲しい、という意見が出ました。

蛇口議長

2学級あれば、必ず残して欲しいという事ですか。

加福委員（上北・三八地区部会長）

なんとかそこは残して欲しい、という事でした。

普通科と職業学科と総合学科の在り方については色々な意見がありました。普通科については、ほとんどの生徒が上級の学校を目指して頑張っているので減らす必要はない、という事でした。職業学科については、一般企業では今専門的な技術とか細かい事は必要とはしていないので、そういう意味では基礎基本の学習、挨拶、精神面、そういったものを育てる事が必要になっています。それから、近年は進学者が非常に増えているので、進学指導の教科もこれからは絶対に必要です。後は、中学校の先生から出た意見ですが、職業学科の学科名がしゃれた学科名が多いが、そういった学科名では親も生徒もあまり意味が分からないし、指導する中学校の先生方も進路の先生は一生懸命やって説明できるがほとんどの先生が分かっていないので、そういう学科名は必要ないのでは、という意見が出されました。保護者や中学生に分かりやすい学科名にして、ここに行くとかこういう勉強をしてこういう方向があると分かった方が、学校としてはいいのではないのでしょうか。また、職業学科の多くの生徒は普通高校の生徒とは違って、色々なボランティア活動や地域の催し物などにも非常に積極的に参加したりして、人間的な基礎的なものが十分養われていますので、そういう意味では職業学科は減らすのはともかく、という意見もありました。総合学科については、中学校からの立場から見ると、進学校の生徒は受験に向いているけども、それ意外の学校に行った生徒にとっては総合学科は必要な学科と思われます。例えば、職場体験を通じて職業観を身に付けさせ、継続して指導ができるので総合学科はあった方がいいのではないかと、という話になりました。しかし、総合学科の良さや実績がまだはっきりと見えない状況なので、県南地区に総合高

校を作れという外の意見もありますが、当地区では導入については慎重な意見で、まだそれにすぐ乗るといふ事は考えられません。それから全県的視野での普通科、職業学科、総合学科の地域毎の募集割合について、先程と重なる意見もありますが、地域毎の違いがあつていいのではないのでしょうか。大学進学率を高めるための普通科増ではなくて、市部と町村部でバランスのとれた募集割合を考えて欲しいです。適正な学校規模を実現するための方策について、生徒数の減少が明らかなので統廃合はやむをえません。しかしながら、地域住民の理解を得られるような基準を設ける必要があるのではないかと、という意見が出されました。例えば、高校長協会の意見にあるように、数年間の入学者選抜の志願倍率や、募集定員に対する充足率や、地元出身生徒の在籍率等を参考にすると、という意見があるのですが、やはりそういった基準を設けないと地域の人やその学校の関係者は納得しないだろう、という意見が出ていました。それから、地域毎の学校配置については、地域の事情による柔軟な学校配置があつてもいいのではないのでしょうか。是非そうして欲しいというのが全員の意見です。

第2専門委員会の社会の変化と多様な進路志望に対応した学科及びコース等の在り方について、意見がばらばらでしたが高校全般だけについてまとめてみました。各教科について、基礎基本をきちんと身に付けさせる事が今求められているのではないのでしょうか。やはり、きちんと基礎基本をやるべきです。中には、ほぼ全員が高校や大学に入学できるという状況は甘いのではないかと、という声や、本当に学校が生徒の評価をやっているのか、もっと厳しくやった方がいいのではないかと、という意見も出ていました。集団の中で自己の役割を自覚し共同で物事を解決して行く、そういった社会人として色々な場面で活躍できるような識見が求められているように思います。これは高校長協会の意見にもありましたが、やはりそういう高校、高校生であつて欲しい、という意見です。次は挨拶、服装など容儀指導について、中学校から見ると指導が甘く服装の乱れなどは当たり前だ、とある委員から言われましたが、それは違います。私も生徒指導を担当した経験がありますが、高校ではけっしてそういう指導はしていません。親にもそのとおりです。しかし発達や年齢がそうさせますし、世の中ではそういう情報がたくさん入ってきます。そういう意味でまず考えなければいけないのは、高校に対して厳しさがもう一度求められたような気がしました。それから、ニートやアルバイトでも生活ができる現代社会ですから、職業観を植え付ける必要があります。そのためには企業の話をよく聞く必要があり、これは先生も生徒も勉強する必要がある、という意見が企業の方からのお話にありました。企業からはいくらでも学校に行つてお話しはできるという事です。その他についてですが、新設高校については、県の財政難の時期に当地区では考えなくてもいいのではないかと、という事です。そういう事に時間をかけていられない、という意見でした。

蛇口議長

地区部会長には本当に皆さんの声を聞いていただいて、意見が行ったり来たりして大

変な苦勞もあったようですが、改めて見ますと、専門委員会の方向性と何となく合ってきたような気がします。

これからですが、第1専門委員会と第2専門委員会に分けて問題点を整理して、決められるものはこの会議である程度決めて、方向付けられるようなものはまとめておきたいと思います。まず、委員の皆さんの意見にもありましたし、各地区の保護者の皆さんの意見にもありましたが、やはり統廃合について何らかの基準作りが必要という事があります。第1専門委員会のテーマなのですが、皆さんからの意見を見せていただいた上で、今の覚悟で私なりに基準を作ってみましたので説明させていただきます。

まず青森・弘前・八戸の旧3市だけについてですが、やはり旧3市については少なくとも6学級以上の学級規模を標準とすると書いています。旧8市という枠組みにすると、黒石高校等では既に6学級を割っていますのでどうしても4～8学級という表現になってしまいますので、ここでは旧3市の青森・弘前・八戸についてのみ、少なくとも6学級以上の学級規模を標準とするという方向性を決めました。その下に書いてあるように、「市部は市部内で、その他の郡部はそれぞれの核を定めてその中で統廃合する」という事を大原則としつつ、その中でも旧3市については原則として6学級以上と定めてはどうでしょうか。

それから2番目として、その他の地区については少なくとも4学級以上の学校規模を標準とします。しかし、現在5学級～6学級規模の学校について、それらの学級数を減らし平準化して全体的に4学級とするのではなく、現在5～6学級以上の学校についてはその数を極力維持するように守って行き、その学校が地区の中心となるコアとして、そこに求心力が働きやすいような仕組みを作ってはどうか。ここで、むつ市であれ黒石市であれ全てがカバーされます。むしろ、5～6学級の学校を維持するためには、3学級とか2学級という学校もある程度は検討の対象としていいのではないのでしょうか。当然2学級未満になったら分校化するのだと思いますが、そういう方向性です。

ここまでに言いたいのは、市部と郡部ではなくて、旧3市とその他の地区という分け方をしてはどうかという事です。また、郡部という表現はふさわしくないと思うのでその他の地区にします。その他の地区には、十和田市、三沢市、むつ市、黒石市、五所川原市なども含まれますので、その学校が色々なコアになるのではないのでしょうか。

それから3番目ですが、ここが問題なのですが、例外として他の学校への通学が困難な地域の高校については県が指針を定めるが、県教育委員会と各地区との話し合いに基づき総合的に判断する、というような逃げを打たざるをえないのではないのでしょうか。この検討会議で決める訳にはいきませんが、しかし、指針として何も出さないのでは全然前に進まないと考え、このように書いてみました。指針は2つありまして、1つ目は地域との密着度が特に高く、町村立などというのではなく住民立やコミュニティー立と言えるくらいに、住民がもの凄くサポートしているような状況にある学校については、2学級以上は当面維持しても良いのではないのでしょうか、という事です。2つ目は2学級未満になった場合は、交通の便が確保され、かつ家庭に過度の負担にならないシ

システムを確立する事を前提に統廃合の検討をする、という事です。システムを確立するのは、先程来県が働きかけるべき等の意見が出ていますが、これはやはり確立されないと困ると思います。ですから、グランドデザイン会議としては、あくまでも家庭に過度の負担にならないシステムの確立を前提に統廃合の検討を行うものとする、という事です。今までやっていたように、2学級未満の学校については、3年続けて先の見込みがなければ無条件で分校にする、あるいは廃校にする、という状態からは県の皆さんにとっては逆戻りします。ですが、やはりそれくらいのセーフティーネットのようなものを、我々としてはやっておきたいと思います。これはコミュニティーがやるのか、あるいは県がやるのかは分かりません。我々が勉強不足なのかもしれませんが、コンセンサスが必要なんだろう、という事です。3点について書いていますが、この資料も後でお配りします。

何か決めないと、4～8学級では基準にならないと思うのです。基準は作らなくてもいいという意見もあるかもしれませんが、基準をどうしてくれるんだというのが各地区において一番の興味の対象であるという現状において、やはり我々としては何らかの意見を言わなくてははいけません。ですから、休憩中に事務局に今の資料のコピーを取って皆さんに配っていただいて、どの程度のコンセンサスが得られるか御意見をお聞きしたいです。その基準が決まるという事は、実は第2専門委員会における統合の組み合わせの在り方や、そういった面に絡んでくるのです。例えば、その他の地域の基準を4～6学級にした場合、それでは専門高校と普通高校の統合は無理という意見がありますが、そうなったらどうするのか、という議論のように、様々な現実問題に立ち向かわなくてははいけません。ですから、一応の原則を立てながら、第2専門委員会では諸問題をどういうふうにできるのか、あるいはできないのかを検討します。先程の報告も非常に良くまとまっていると思うのですが、各地域毎に普通高校ではどういう学校がやりやすいのか、あるいは普通高校、工業高校、農業高校がある程度ある地区ではどうなるのかを、学級数の在るべき姿を確認した上で皆さんに考えていただきたいのです。大変だとは思いますが、実際には県の教育委員会が実施部隊になってやる時に、ある程度のラインが見えていないと、一般県民の希望とかお願いといったレベルで終わってしまいます。それではグランドデザイン会議ではなくなってしまいますので、やはりトライして行きたいと思っています。ですから、今日は少し時間が延びるかもしれませんが、人数や学校規模の問題に入って行きたいと思います。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

蛇口議長

皆さんの意見の集約に向け、昨日メモを作ってみました。たたき台という事で方向性の案を示させていただきましたので、これを読んでいただいて意見をいただければと思います。1番目は青森、弘前、八戸については少なくとも6学級以上の学校規模を標準

とします。郡部という表現は不適切かもしれませんが、それ以外はコアを定めてその中で統廃合を進めて行きます。コアをどう定めるかと言うと、例えば五所川原市は五所川原高校となるでしょうし、その他の地域はどうなるのかという事はあると思います。この辺は県教育委員会が主体になって協議し、決めて行けばいいのではないかと思います。

それから2番目に、その他の地域については少なくとも4学級規模以上の学校規模を標準とします。ただし、今ある5～6学級以上の学校については、それを維持するような原則が良いのではないかという事です。上から押し潰して4学級に平準化するのではなく、逆に5～6学級の高校へ集約して行くような方向性です。これも具体的には非常に難しいと思います。2～3学級の学校をすぐに統合するのかという議論が必ずあると思いますので、これはやはり県が中心になって住民の意見を良く聞いて行く事になると思います。

3番目に例外として、他の高校へ通学が困難な地域は、次の指針を一応決めました。現実の対応としては総合判断によるもので、これも県に判断をお任せするという事です。各地域との話し合いについても、6地域がいいのかという問題も出てくると思います。(イ)は、地域等の密着度が特に強く、コミュニティー立とか、住民立と言える状況にある学校については2学級を当面維持してもいいのではないのでしょうか。(ロ)は、2学級未満になった場合には交通の便が確保され、かつ家庭に過度の負担にならないシステムの確立を前提に統廃合の検討を行う、というものです。これも先程の意見のとおり、何らかの方法で保証すべきだと我々はこの会議で言う事とし、このような一応の大原則を決めて、1月の専門委員会で揉んでいただいて、3月の中間報告になる訳です。1つの大きな柱として、このようにしてはどうですかという試案ですが、これについて今日は確認していただきたいと思います。4についてはこれを前提にして、現実対応として色々な地域を鳥瞰的に見てみますと、普通高校と普通高校はいいけども専門高校と普通高校は駄目だと言う事になると、この仕組みが動きません。そういう事から、もう一度大原則に戻って協議しても結構です。

それでは、1～3について、副議長に検討をお願いします。

友田副議長

右に行ったり左に行ったりという事では方向性が定まって行かないでしょうから、この会議の中で方向性を出してはどうかという事で、議長自身から試案が出されました。この事についてどなたか意見はありますか。

A委員

3番目の(ロ)2学級未満となった場合には交通の便が確保され、かつ家庭に過度の負担にならないシステム確立を前提に統廃合の検討を行うべきとありますが、私は以前にもこの会議で統廃合を進める段階では地域のこういうような所の便を図る事が一番ではないかと考え、同じような発言をしました。今でもそういう気持ちはあるのですが、

第1専門委員会の意見では、具体的例で言いますと、むつ・下北の場合は既に遠方の高校に通っている子供達があります。その場合、実際には通えない子供達もいますが、その親達が連携しあって車を確保し通わせています。もし、今統廃合をした時に、その子達の経費を県が援助するとなると非常に均等を欠く事になるのではないかというお話がありまして、なるほどと思いました。やはりそこまでは、県が金銭的な形で補助はできないでしょうし、地域の会議でそういう御発言が出たという話が先程ありました。それらを考え合わせると、金銭的な援助ではなく、システムを考えながら後押し支援をするやり方があるという事を提案して行く事が良いのではと、この前の会議で確認した所です。そういうものを全て含めた何らかの形を出しておかないと、後で少し大変になると思います。義務教育ではないのですし、子供の意識も、親の意識も変わって然るべきではないかと思います。

#### B委員

1、2、3番について、概ねこういう形でいいのではないかという感じがします。ただ、具体的に現在の生徒数の減少があり、これから高校へ入学してくる中学生、小学生が減ってきています。色々難しい点があると思うのですが、具体的な生徒数をシミュレーションしてみてもどうでしょうか。年によって違うケースも当然あるでしょうが、各地区毎にどこへ進学するか等について色々現在の動きをシミュレーションして弾いて見ると、学級数をどのくらい維持できるのか具体的に見えてくるのではないのでしょうか。文章で6学級とか4学級とかでも分かるのですが、具体的に数字に落として見ると、更に具体性が出てくるのではないかと思います。もし可能であれば、そういう資料を作っていたいただければ議論に役立つと思います。

#### 蛇口議長

事務局の方では作っていると思うのですが、ただ、やはり地域によって凄く特性がありますので、単純にできないのは先程もお話しました。例えば、三沢市と八戸市で中学生がどう移動するのか、黒石市と弘前市ではどうなるのかという事などがあり、シミュレーションは非常に難しいと思います。現実問題として、これまでの生徒数の推移から見て類推する方がむしろ正しいのかもしれない。

#### 友田副議長

県では色々シミュレーションしているのしょうけども、議長の案を今初めて見たのですが、この数字に沿ってあるいはこれらを基本にシミュレーションするのは可能ですよな。

#### 事務局

ただ、数からいってはっきりできる部分はいいのですが、専門高校、総合高校の割合

や学級数などを考えて行く時には、やはりはっきりとは行かないと思います。

#### C 委員

確認したいのですが、この試案では普通科についてだけ書かれているようですが、専門高校等の校種を出して農業高校は2学級、工業高校は2学級を基準とするとか書いてしまうと、あまり縛りがあると可能性が薄れてしまうという事ですね。

それから、統合というのは、例えば3学級の学校と2学級の学校を合わせて5学級として、クリアするという事なのでしょうか。統合というのは、大きい学校と小さい学校だけになるのでしょうか。私は2学級や3学級の学校は、地域性を考えればそれでもいいのではないかという気はします。

#### 蛇口議長

そのとおりだと思います。やや無責任かもしれませんが、その辺については県教育委員会がこれからどんどん具体的にやると思います。各地域との話し合いに入っていくと思いますので、あまり縛りません。5～6学級が教育上ベストだというのが皆さんの声です。そうであれば、いかなる方法であっても、2学級+3学級、4学級+1学級、5学級+1学級であっても、その地域の特性に応じて色々なバリエーションがあってもいいのではないかと考えています。皆さんはいかがでしょう、それでよろしいでしょうか。しかし、それについては、現実問題としてももの凄い抵抗があると予想される訳です。そこは我々このグランドデザイン会議では入って行かなくてもいいのではないのでしょうか。5～6学級がベターですよという事で、後は県教育委員会にお願いします、というスタンスでよろしいのではないかと思うのです。

#### C 委員

しかし、2学級+3学級=5学級を良しとすると、減らす学校がなくなり、今度は大きい学校を減らしていかなければならないという事があります。

#### 蛇口議長

2学級+3学級がそのままずっと残る訳ではないでしょう。3学級+1学級になるかもしれないし、2学級+1学級になるかもしれませんので、それを見越しながらやっ行って行かなければいけません。ですから、3学級+2学級もありえますが、それで全体として減るのだと思うのです。それで色々なシミュレーションをしてみて、トレンドで見るより仕方がないと思います。その上で、その地域について3～5年後どうなるかというのを見て、県の方から話を持って行くと思いますので、その事は我々が心配しなくても良いと思います。

#### C 委員

非常にいいと思ったのは、3番の(イ)です。この前、小中高大の連携の会議があった時に、2～3学級の郡部にある学校には多様な生徒がいて、色々な問題を抱えた生徒に対して学校設定科目とか、色々な選択肢を設けて複雑なカリキュラムを組んでいます。そういう色々な生徒に対応した学校運営は、結局は人員が確保されなければできません。中学校と高校の先生の交流を教育委員会にお願いしてはいるのですが、これは地域からの援助がなければできないという面があります。このように、小学校、中学校、高校の先生が免許を持っていれば他の学校に行って授業したりというように、お互いに存続させるような協力関係になっていなければ存続せず、将来は統廃合の対象になりますよ、という事で非常にいいと思います。

#### D委員

この案について、全体的にはこれで行けば良いという気はするのですが、6学級以上、あるいは4学級以上と書かれていますが、現実の学級数を見ると統廃合を大前提にしないと出てきません。例えば、青森市では、平成20年度を見ると6学級以上は青森高校、青森東高校、青森工業高校しかない訳です。

#### 蛇口議長

冒頭の第1専門委員会の説明において、まだ決定ではありませんが、今のトレンドとしてやはり統廃合はやむをえない、という大前提が大きく打ち出されました。それを踏まえて、それではどうすべきかという事です。

#### 友田副議長

東青地区で平成20年度に6学級を切るのは、青森中央高校の5学級だけです。

#### D委員

ただ、統廃合をしなければ結局は生徒数が減るので、平成20年度から10年後であれば、先程言ったような職業高校の事もありますが、できるだけ6学級、最低でも4学級と考えるのがいいのではないのでしょうか。

#### E委員

議長の提案は非常に分かりやすいと思います。2の所についてですが、その他の地域については、少なくとも4学級以上の学級規模を標準とするとなっておりますが、文章上の表現的な事になるかもしれませんが「少なくとも」という表現はいらぬのではないのでしょうか。グランドデザインですから表現は明解であって良いと思います。もう1つは3市に6学級以上とありますが、それ以外でも十和田地区など6学級以上のコアになれる状況を持っておりますので、もう少しそういう所を含んだ表現もあるのではないかと思います。それ以外については、非常に良い提案だと感じています。

蛇口議長

ありがとうございます。私は、第1専門委員会が4～8学級と書きましたので、少し遠慮して標準と書きました。非常に難しいですね。4以上と、このグランドデザイン会議で言い切れるのかという事も考えました。

F委員

なかなか馴染めない事もありますが、議長のお話を聞いてなるほどと思いました。地元の学生の定着率等の、地域との密着度を判断する皆さんが納得するような基準を明確にする事で、3の(イ)はクリアできるだろうと思いました。

先程地図を見直したのですが、やはり下北、西北という所が非常に離れていますし、学級数も非常に少ないので、例えば、自分なりに調べてみたのですが、神奈川県ではeラーニングであるとかインターネットを使ったスクーリング等を行っているようですので、離れた場所でも情報化社会の手段を使って何か考えられるのではないのでしょうか。

蛇口議長

それは冒頭で申し上げたように、私立学校との連携という事もありえると思います。

F委員

私立学校はバスで送迎していますね。

蛇口議長

そうなのです。大変な赤字を出してやっているのです。ですから、例えば県立高校の場所を無料で借りてスクーリングや通信教育等も行うなど、そういう事は私立高校の方がいいのではないかという観点を当初の段階でお話しています。eラーニングも結構ですね。私立高校との連携があってもいいと思います。

G委員

私の立場で考えますと、郡部の学校がどういう風になって行くのかという事があります。そこで3の(イ)の所ですが、地域立、コミュニティー立という状況の学校は当面2学級維持という文言がある所は良いと思います。基本として統廃合を前提として考えて行くという事であれば、住民や保護者が理解できる基準というのは明確にして行かなくてはなりません。ただ人数が少なくなったから統廃合ありきだけでは住民は理解できませんし、やはりこれまで支えてきた地域の核となる学校という意識がまだまだあると思います。そこを理解していただくためには、こういう基準でこういう方向で行きます、というようなものは必要だろうと思います。また、多様な生徒に対応した学校づくりという事になると、普通高校ではあるけども進学をしない生徒の就職の手助けをしたり、

いわゆるドロップアウトした生徒の受け皿であったり、特別支援が必要な生徒であったり、そういった部分をケアするという意味では、そういう学校でケアして行くというメリットもあるのではないかと思いますので、是非この点は維持していただきたいと感じています。

#### 蛇口議長

そういう2学級を切るような状況になっている学校でもいい教育を行っている所がありますので、本当に悩ましい訳です。ですから、その辺の表現は気を付けなければならぬかもしれません。

#### H委員

保護者の立場で申し上げたいと思います。やはり親としては、相川委員からもありましたように3の部分是非把握してやって欲しいと思います。と言いますのは、今回の統廃合について心配しているのは市部の父兄よりも、郡部の父兄だと思えます。都市部であれば多少減るかもしれませんが、色々な選択肢がありますのであまり心配がないのかもしれません。郡部では、なくなるのかどうかと心配しながら今回の改革を見ていると思います。その時に、今回の案で、地域の皆さんと力を合わせて行く事ができるかもしれません。学校を運営するためには地域の皆さんの力が必要ですし、教育の面でも地域の皆さんの色々な力が必要ですので、是非、3の(ア)は大賛成です。

#### I委員

生徒のためという事からの意見です。下北地区では川内高校などが校舎化になって行く訳ですが、地域の特色と言っていますが、青森県はそういう意味ではたくさん抱え込んでいる訳ですから、そういう事に対応したような新しい学科を作り、他の学校に行くよりもこういう事で優遇されるんだよとか、プライドの持てるような学科を作り、地域ぐるみで進めて行けばとても希望が持てると思います。その学科に魅力があり、むつ市まで行かなくてもここに立派で良い職場があるとか、地域に貢献できるという事で目的意識を作れるような教育システムが作れるのではないかと考えています。このままで行くと、校舎化しても更に校舎化も維持できなくなり、ただ時間が延びただけでその後の策がないのでは救いがないような感じがします。積極的に新たな策を立てるというだけでなく、もう少し地域の特色を打ち出すのであれば、4の項目で、もう少し変わった学校ができるのではないかと考えています。

もう1つは、何らかの理由で地域に残らざるをえない場合は、教育の機会均等という面で気の毒な感じがある訳ですが、では地域のニーズがある学校を残すために、少ない生徒に対して校舎を維持管理し教職員を配置するよりは、整った環境で高校生活3年間を送らせるためには、場合によってはスクールバス等何らかの方法を手配した方が良いのではないのでしょうか。県立高校では、それはできないという事ですので、どうしたら

良いかを考えている所です。

#### 蛇口議長

それでは、私から提示した案については一応の賛同が得られたものとして、第2専門委員会のテーマに入ります。各地区の姿を思い描きながら、地区部会長も苦労されていると思いますが、どのような事が可能なのか。県の方がこの後に苦労されるという事も頭の中に入れながら議論を進めて行きたいと思えます。資料2について、おさらいさせていただきたいと思えます。の今後の方向性という所で、普通科に併設されている専門学科の問題があります。これは、地区部会長からも出ましたけれども、問題が多いという事ですので、廃止も含めて検討という事でいいでしょうか。専門高校、例えば工業高校に普通科があれば、生徒の進路にフレキシビリティがあって良いのではないかとこの提案もありました。しかし、それに対しては、そういう学科を作っても生徒は集まらないでしょう。集まらないと言うのは、普通科に併設された専門学科が失敗とは言いませんが、あまり成功とは言えない事例もある事など、我々は1つずつ踏まえて行かなければならないと思えます。その辺についてはきちんとコンセンサスを得ながら考えて行きたいと思えます。それに関連して、「(エ) 新しい学科等の設置の必要性」については、新しい学科の設置は行わないと言いながら、地域性に応じた新しい学科の設置や進学対応の学科の設置があっても良いというのはどういう事になるのか整理しておきたいです。例えば、先程も要望が出た介護学科があります。それが地域に密着しているのかどうかは分かりませんが、そういう学科は既に私立高校がやっています。そういう分野に敢えて進出する必要性はないのではないかと考えています。第2専門委員会の結論がどちらとも取れる玉虫色の結論では困ります。議員の要望に対して私達の意見が言えなくなってしまうので、今後1月の専門委員会で、こういうような方向でやりたいというお考えなどありましたらお願いします。

#### 高山委員(第2専門委員会委員長)

地域に根差した特色ある学科については、議会や地元から要望のあった原子力に関する学科や、委員長がおっしゃった介護に関する学科を想定して話をしていますが、前向きに、積極的に取り組むべきではないのではないかとこの方向性です。と言いますのは、原子力について専門性の高い教育があって初めて活躍できる場が近くにあるという事ですが、今想定されるカリキュラムや教育内容では到底到達できないだろうと思っています。それよりも、基礎基本やオールラウンドな部分を充実させて、人間として、社会人として立派に働けるような素質や資質を持った人を育てれば、それが地域に残るのではないかと考えています。まず入れ物と言うのは逆ではないかと思っています。

#### 蛇口議長

ありがとうございます。大変クリアな考え方だと思います。地域性、原子力、エネル

ギーについて、意見を願います。

Ｊ委員

卒業して就職する生徒の比率について、資料にある３ヵ年の数値を見ると普通高校が４,０００人程、専門高校が７,０００人程になります。専門高校から進学する生徒も７,０００人ぐらいなのです。今、専門高校は基礎基本なり社会に出て行って必要な学力や能力を付けさせる所であるという前提ならば、就職をする人間を育てるという観点での専門高校の再編という議論があってもいいのではないかと思います。それは数字的にも合うのです。現在、専門高校で進学というのは、ほとんどが推薦で入れてもらっています。その数は今後もっと増えるだろうと思います。大学全入時代になって大学側が推薦を増やす傾向になっており、専門高校から進学というのは推薦という枠の中で増えているので、先程の「工業高校に普通科を」といった話はしなくても良いと思います。もう１点、進学の比率が果たして増えるのかという事があります。経済的な理由で進学できないという子が凄く増えてきています。そういう事からすると、経済的に一気に豊かにはならない訳で、今より進学の比率が増える要素がなくなってきており、就職するという生徒が増えてきます。そういう就職する生徒に対して基礎基本を身に付けさせる専門高校というのは、実際の出口を考えた時には必要なのではないかと思います。

蛇口議長

工業高校に原子力学科、或いはエネルギー学科を作りますか。そういった学科を作った方がいいという意見についてはどう思いますか。

Ｊ委員

大学との連携の中では、どちらかと言うと原子力よりもエネルギーや環境という事になるとと思いますが、エネルギー需給率が多分日本で一番高いのではないかとと思われる青森県では、そういう特色を活かしたエネルギー系の学科というのはあっても良いのではないかと考えます。

蛇口議長

そういう学科を工業高校に作りますか。

Ｊ委員

要請があるのであれば、私は作りたいと思います。

蛇口議長

私が申し上げたいのは、そこまで専門性の高いものを工業高校のレベルで作りますか、という事です。

Ｊ委員

高大の連携の中で考えると、作らなければいけないと思っています。連携の中で作って行けるのではないかと考えます。

蛇口議長

高大連携というのは、私立大学も含めてですか。

Ｊ委員

そうです。私立大学も含めてです。

蛇口議長

工業高校にエネルギーや原子力の学科を作る事は意義が大きいですか。

Ｊ委員

今の受け皿状態であれば意義があると思います。

蛇口議長

それでは、むつの地域性とのマッチングという事についてはどうですか。

Ｊ委員

場所的にはむつが望ましいと思いますが、むつにそれがあるから青森県の他の地域から行くかと言うと、なかなか難しいと思います。

蛇口議長

原子力に関する学科が他県の高校であるのかは分かりませんが、私は環境というような大きな項目の方がいいと思うのですが、いかがでしょうか。

Ｊ委員

私もそう思います。入口を狭めてしまうと最初からそこに行きたいという生徒は非常に少なくなりますし、出てからも行く所が限られてくるので、特定の細かい分野でない方がよいのではないかと思います。

友田副議長

普通科に併設されている特色ある学科ですが、普通高校の特色化、多様な学習ニーズに応える観点で作った訳ですので、評価して行く事が大事だと思います。ただ、これも学科の設置基準で、農業に関する学科、工業に関する学科と並んで外国語に関する学科

とか理数に関する学科というものが法律にある訳ですので、青森県はそれが空白になる場合どうなるのかという事も十分に検討する必要があると思います。例えば、理数に関する学科はかつて3校ありました。八戸北高校、三本木高校、五所川原高校にあったのですが、八戸北高校が無くなり、三本木高校が中高一貫でなくなりますので、五所川原高校だけとなります。そうすると隣県で見ても、岩手県は、盛岡一高など4校にあります。秋田県は、秋田高校を含めて5校あります。その中で青森県が五所川原高校にはあるかと思いますが、小規模化して学科が無くなるという事が、青森県の公教育として必要な事なのかどうか吟味して行く必要があると思います。県内3市にある学科、例えば、青森南高校には外国語科とかがありますので、県のセンター的になる所はいくらかでも残しておく必要があるのかどうか検討していただければと思います。

#### 蛇口議長

現在ある学科の中には、まだ途上のものもあると思いますので、それを積極的に廃止するという方向では決してないと思います。実際に減ってきている段階で、どうするのかを検討課題とするという事でいいのではないかと思います。県議会からの質問や教育委員会への要望についてのペーパーが配られましたので意見を聞きましたが、その他何か意見はありますか。

#### I 委員

原子力の専門分野に関する事について、原燃が下北にできた時に、六ヶ所高校や三沢高校から保安や消防の部門に入社して、5～6年も教育をしてエキスパートを作っていました。やはり街の消防では対応できないので、高校から更に5～6年も教育して行かなければならないという経緯があるのだと思います。その他にはガードマン的な求人があります。

#### 蛇口議長

原子力という事だけではなくて、現実的な対応をして行けばいいのではないかという事だと思います。

#### F 委員

我々の考え方を再度復習するという意味で話したいと思います。なぜ下北からこういう要望が出てくるのか背景を考えると、先程から地図を見ているのですが、距離が離れていて、教育環境も厳しく、経済的にもあまり豊かではない部分もあり、職場が下北地域にない、という状況がありますし、あるいは、若者が出て行ってしまうという危機感から出た要望だと重々感じてはいます。しかし、そうした中においても、高校教育の中で原子力に特化した事ではなくエネルギーや環境という事であれば話は別だと思いますが、今回の要望については、我々は現段階では前向きに検討するのではなく、将来の展望とし

て、関連する色々なサービス部分を原燃でも地域に任せようとしている最中ですので、そういうニーズに対応するような形で、新しいコースや学科を検討するべきだと考えています。

蛇口議長

そういう事について意見を求められましたので、これまでいただいたような回答でよろしいでしょうか。

それでは、本論に戻ります。「(オ) 統廃合に伴う新しいタイプの学校の可能性」です。中程にある「新しい校舎の建設が理想だけでも難しいだろう」というのは、現実的な対応です。最終段に「普通高校と専門高校の統合については難しい」とありますが、他の意見もあったと思い書いたのが私の提案です。相性もあると思いますので、どうして普通高校と専門高校は駄目だという意見になったのかと思います。統廃合の組み合わせについて、皆さんの意見をお聞きしたいのですが、同種類の高校で地域が近ければ、先程の原則に則っての統廃合はやむをえないのではないのでしょうか。この点は皆さん一致する所だと思います。(二)の順応性があるものもあり、結構できるのではないかという意見もある訳です。ここで決めるという事ではなく、専門家の校長先生方の意見を聞いてみたいのです。色々な専門が異なる分野の高校が一緒になった場合のマネジメントがいったいどうなるのか、難しい事ではあると思います。ただそうやってしまうと、工業は工業、農業は農業、商業は商業という事で一切交わりません。という事は、要するに統廃合はできないという事になります。そこで、例えば商業と農業であれば相性が合うのでしょうか。私は商業高校の校長会などに行ってお話をするのですが、八戸大学にはビジネス学部があり、色々な学校や学科から入学してきます。農業と商業には専門性の違いはありますが、ビジネスという観点では接点が多くあります。そうであれば、高校でもできるのではないかと私は考えています。この辺についてはあまり議論した事はないように思うのですが、専門委員会ではどうでしたか。

高山委員(第2専門委員会委員長)

実際に、農業高校と商業高校というように具体的には検討していません。しかし、委員会の話の中では産業高校みたいなイメージで、ビジネスとか起業とかについて、1つのまとめりとして、産業分野における縦型ではなく横型であれば十分可能ではないかという話はしています。全く否定する訳ではなくて、これからどういう形が可能なのか検討したいと思います。

蛇口議長

是非お願いします。1つだけ例を申し上げますが、商業高校の校長先生や教頭先生と話をしてきたのですが、商業高校は農産物が採れた後の販売をやる訳です。ITなどの処理もそうです。それなのに、どうして入って行かないのでしょうか。農業は農業で、

栽培し採れても、売るまではやりません。そこで切れる訳です。そうであれば、一緒にしても相性が良いのではないかと考えます。また更に言えば、普通の普通高校に、商業や農業が一緒に入ってはまずいのでしょうか。普通の普通高校という表現は適切でないかも知れませんが。父兄から普通高校の希望が多いという事で普通高校を作っていますが、普通高校にも進学校とそうでない学校に厳然と分かれていると思います。そうであれば、新しいタイプとして、普通の普通高校と農業と商業などを一緒にするのはありえるのではないかと思います。検討委員の皆さんは、これから10年後に向けて考えなければなりません。その時にある程度の指針のようなものを我々が示せばいいのです。ここで示したものを専門委員の方々にも揉んでいただいて、中間報告にして行きたいと思っています。

高山委員（第2専門委員会委員長）

産業高校のイメージ、ビジネス学校のイメージと言いますか、作る人、売る人、発注する人というような、ビジネスの流れ全体をまとめて学ぶというような、新しいタイプのものを考えて行きたいと思っています。

友田副議長

本県でも、現在複数学科の学校があります。弘前実業高校は、商業、農業、スポーツ科学科がありますので参考にさせていただければと思います。

蛇口議長

教育委員会で計画を進めるためには、ある程度作業を見越した内容にならないと、間に合わないのではないかと思います。なかなか時間が限られており、皆さんと検討し尽せないのではないかなとも思います。そこで書きましたのは、同種類の高校以外にも順応性があるものもあるのではないかという事です。逆に順応性が薄いのは、工業高校、水産高校という事で、少し違ってくるのではないのでしょうか。ただし、私が県に提案しているのは、他県で失敗している例も沢山あるようですが、何もやらずに単に相性が悪いから止めておこうという事では、この少子化の時代に対応できないのではないかという事です。順応性は薄いけれども、1つ、2つトライしてみる事を検討してみてはどうかという事を、言うべきか言わざるべきかという事について、皆さんの御意見を伺いたいのです。

K委員

第1回目の会議でも出ていますが、その専門の学校を終えたとしても、全員がそれに関連した所に就職するかと言うとそうではない、という意見も出ております。また、原子力関連と言っても、どういう職種に採用してもらえるのか分からないという実情もあります。

個人的には、先程議長が提案された案を大原則とし、標準とするのは大賛成です。そのためには、思い切った統廃合をしなければならないという事があくまでも大前提です。そういう事で、統廃合も難しいという事で考える材料としてもいいのですが、そこで躊躇しないのです。学級減だけでは成立しませんし、統廃合をしない限りは絶対にできません。やはりグランドデザインを考える時には思い切った統廃合を提案して、その結果、全体のデザインを考えるという事でなければならないと思います。

蛇口議長

専門委員会には、大胆に検討していただきましょう。そういう事でなければ計算が合わないですし、間に合わないのではないかと思います。

B委員

色々な組み合わせがあり、普通、農業、工業、水産などを実際にくっつけた場合にどのようなメリットがあるのでしょうか。スケールメリットはあるのでしょうか、当然デメリットもあると思います。先生の側から見たデメリット。生徒の側から見たデメリット。例えば普通科と農業科を一緒にしたとイメージしてみると、農業科では実習が色々ある訳です。それは多分、農業科の生徒だけが行い、その間は普通科の生徒は何もしません。そういう面からも、学校全体の運営が本当に旨く行くのかと感じています。そのようなデメリットを検討してみて、その上で解決できるようであれば統合可能という考え方で進めた方がいいのではないのでしょうか。私は県外の高校を出ていて、普通科と商業科を併設した高校でしたが、当時は全然違和感はありませんでした。普通科と商業科は、非常に馴染みがあると経験からそう感じます。以上が統廃合に関してです。

もう1つですが、地区部会や専門委員会でも出ていますが、専門学科の多様化が進み過ぎていてのではないかと思います。細分化して細切れになってもきりがありません。企業等が高校生に求めている事は、細分化された知識よりも基礎基本という事であり、広い分野に対応できる基本的な知識や応用力の育成が期待されているという感じがします。そういう点では、いくつかの学科の統合も展望してはどうかと思います。

先程新しい学科の新設はしないという方向でしたが、原子力エネルギー関係の専門学科を作る事には否定的ですが、もう少し幅広く環境エネルギー学科という形があるのかもしれない。また、今の工業高校にある学科の中で原子力関係の科目を教えて行く事は必要ではないのでしょうか。どこの工業高校でもかまいませんが、例えば地域性を考えればむつ工業高校にある学科の中で、放射線の扱いに関してとか、そのような分野の科目を新たに勉強させて行くという手段もあるのではないのでしょうか。そういう必要性もあるという気がします。

蛇口議長

普通高校と商業高校の統合におけるメリット・デメリットを実際にあげて判断するべ

き事であるとは思いますが、結果的には統合をするという方向だと思います。ですから、デメリットをどのようにクリアするのかという事と、しかしメリットもありますという事です。ある程度皆さんの意見にも出ているように、統廃合をやる以外にないという事から始まっていますので。

友田副議長

現在、普通科の中でも進学をあまり重視していない所は、就職のための資格取得とか、就職を見据えた商業科目とか、かなりの単位数でやっていますのでその点は大丈夫だと思います。

蛇口議長

統廃合の組み合わせの中で、どうも分からないのは総合学科の在り方です。総合学科を大分強く支持するという発言がありました。そこで、統廃合をする上で新しい形の総合学科というのはいえるのか、その点について専門の校長先生方の意見をお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

D委員

地区部会の委員も、総合学科というのはいあまり良く分からないのだと思います。偶然、地区部会の委員の中に総合学科の校長先生がおりましたので聞いてみた所、入学して進路的に迷っている、どこに行けばいいのかと悩んでいる生徒にとっては非常にプラスであるという事です。しかし、それ以上を目指している者については、進学校という感じではないというように言っていました。また、地区部会の委員からは、総合高校を職業高校というような形にしてもいいのではないかと、という意見はありました。それから、統廃合の組み合わせについては、どのような組み合わせでも不可能ではないと思います。教員数も学科によって違いますし、学校行事なども最初に決めてしまえばそれに合わせて行けばいい訳です。ですから、こういう組み合わせが駄目だということはないのではないのでしょうか。年間行事、教員数、場所等がきちんとしていれば可能だと思います。

蛇口議長

大変心強い意見ですが、相性の良し悪しというものは、やはりあるのではないのでしょうか。

D委員

実際の所は分かりませんが、鹿児島商工高校等のように商業と工業という学校は昔から全国的にありますので可能な感じはします。

蛇口議長

確かに全国的に見るとありますので、商業高校、工業高校、水産高校と特別扱いする必要はないという事ですが、いかがでしょうか。

## L 委員

ある委員から指摘を受けたのですが、「普通科の学級数が減っても商業科が残る場合、普通科2学級で商業科1学級となると、どちらが学校でメインになるのか」という事について、どちらも取れないのではないかと、言っています。また、「実際に三戸高校が商業科と進学を両方を頑張ろうとしている中で、じっくり観察すると、その中でパイがなくなってきたのです」という意見もありましたが、私はそうは思いません。商業科は商業の検定や資格取得を目指して頑張っていますし、普通科は就職にも進学にもそれぞれ取り組んでいます。そういう意味では、先程言われたように、普通科と商業科が一緒になる事は何ら無理な事ではないと思います。

ただ、農業高校にも勤めた経験もありますが、農業高校は天気や自然に実習が左右されます。そういった時に、農業高校と工業高校、農業高校と普通高校が一緒になった場合、学校をどのように動かして行けばいいのか、という事になりかねない部分もあると思います。それは、普通科の生徒達も手伝うという事にもならざるをえない場合も出てくると思うからです。

県南地区の三本木農業高校のように大きくて生徒数も多い学校はいいのですが、小さな名久井農業高校のような学校に普通科1学級がくっついた場合、おそらく体制としては皆一緒にやろうという事になると思います。また農業科では色々な検定試験等の勉強のために、学校行事を年に何回もする訳です。そのように一方がドヤドヤ動き、片方の1学級がこじんまりと勉強していて落ち着くでしょうか。このような事もあると思います。また、職員の数は確保できると思います。

先程言ったように、商業科、普通科は2つ並んでも十分対応できます。木造高校も然りです。ただ、こういう意見もありました。「熱意のある先生がいて一生懸命やっている時はいいが、その先生がいなくなると駄目になる」という併設に反対の意見です。しかし、そのような事は考えなくても良いと思います。学校の先生は、皆一生懸命やらなければならない訳ですから。

原子力についての学科を、むつ工業高校に新設できないかという事についてです。例えば国立高専が八戸にあります。当時は最高に期待されて、しばらくの間は良かったのですが、今のように採用が停滞すると子供達はほとんどが編入し大学に行きます。就職口がありませんから。10年先のグランドデザインですから、その辺も良く考えなければいけないと思います。

それから、今の子供達の周りの経済状態がどのようになるのかという事です。私はいつも小さな学校にいましたから、親と地域の人達の事しか頭にありませんので言いますが、経済的な見通しをつけて考えなくてははいけません。ただ単に学校を作った方がいい、無くした方がいいだけでは、後で後悔するのではないかと思います。

蛇口議長

全くそのとおりです。色々な事を心配しながら、このグランドデザイン会議は何らかの姿を示さなければなりませんし、これを実施して行く県の方々は大変だと思います。10年先という事で非常に描きにくいものですが、ただし厳然とあるのは少子化がどんどん進んで行く事です。

C委員

総合学科について、ある校長先生とお話する機会がありました。総合学科は多様な生徒が入ってきているために、多様な科目設定をしています。ですから、理科の先生は専門以外の科目もたくさん教えなければなりません。従って、ある程度の規模が絶対に必要だという事です。多様な生徒がいますから、中には今年も弘前大学に入学している生徒もいますので、そういう生徒にも対応する時につらいという事があります。生徒の志望に対応できるように、ある程度の物理的な条件はかなえて欲しいです。また原子力についてですが、私は十和田西高校の観光科を見てきているのですが、需要と供給の問題があります。十和田湖があるために観光科を作ったのですが、需要があるうちは確かに良かったのですが、今は需要がないために定員割れしています。観光科も結局進学コースのようにして、どんどん大学に行っているという状況もあります。作るのはいいですが、ある程度の見通しがないと狭い範囲での学習はむしろ足枷になって、生徒が不利になるのではないかと思います。現在もむつ工業高校は5学科5学級ありますので、括り募集の中で対応していければ、ある程度は可能ではないかという気はします。

蛇口議長

貴重な意見をたくさんいただきありがとうございました。今日は全てを決める会議ではありませんが、相当思い切った議論になったのではないかと思います。これを踏まえて、1月に専門委員会を開催していただき、おそらくある程度案を出したとしても、また揉まなければならない事もあると思います。この後の日程はどのようになっていますか。

事務局

2月に地区部会、3月に第4回の検討委員会を開催する予定です。

蛇口議長

1月の専門委員会が終わりましたら、ある程度まとめに入らなければなりません。そうするとまた集まる機会はありませんので、議長、副議長と事務局である程度の骨子をまとめる事になると思いますが、そうすると皆さんに提示できるのはいつ頃になりますか。

## 事務局

まだ日程的にきちんと詰めていませんが、皆さんに見ていただくとなると2月中に作業をしなければならないと思います。

## 蛇口議長

それで作ったものを、皆さんにメール等で意見を聞きながら、3月の中間報告に至る前に、ある程度一度皆さんの目を通った形で集まりたいと思います。それが3月下旬です。そこで、いきなり最終案という事にはならないという気がしますので、また直していただいて最終報告に間に合わせたいと思います。

最後に、私立高校との連携について全県的視野でという事が色々な会議で出てきていますが、是非専門委員会でもその事を含めて検討していただきたいと思います。県立高校が減って行くのに、私立高校がそのままいいのかという事がどうしてもあると思います。我々私立高校の関係者もその事を考えています。やはり健全な私立高校が残って、そうでない所が自然になくなるのが一番いいのかもかもしれません。あるいは、財政的にも私立高校にも役割を振るのか、こういう観点もありえます。私立高校も力を付けてきている所も、そうでない所もあります。そのような中で避けて通れない議論ではないかと思います。今日の議論ではない事ですので今日は止めますが、各専門委員会、あるいは地区部会において、その方が全県的な観点から地域や父兄のためになる、教育のレベルアップにもつながるし効率的である、という事であれば、是非加えて検討いただければと思います。

あと気になるのは、「定時制の今後の方向性」というのがあります。少しだけお聞きしたいのですが、私は少子化に対応するという前提からすると、方向としては同じように考えざるをえないのではないのでしょうか。同じように地域で集約できるものは集約するのです。定時制も減っている訳で、特別扱いするべきものではないという方向性だと思います。そういう事で、1月の専門委員会でも触れていただければと思います。意見等ありましたら事務局にお伝えください。以上で終わります。

## 閉会

## 事務局

長時間にわたりお疲れ様でした。資料を読んでいただいて、疑問点等が出てきましたら、事務局の方に御連絡を頂ければ対応しますのでよろしくをお願いします。